



紫蘭
(風組中庭)

つな が り

自ら動き、感じ、楽しむ ~笑顔あふれる幼稚園~
~やさしく かしく たくましく~

第 2 号

令和4年5月17日発行
山口大学教育学部附属幼稚園

副園長 大森 洋子

その子らしさを受け止めて

吹く風が心地よい季節となりました。GW直後は、「少し疲れているかな？」と見受けられる子どもたちもありましたが、また元気な声が戻ってきています。GWも楽しかったようですが、「お休みの間、『早く幼稚園に行きたい』と言っていました。」という声も聞き、とても嬉しく思いました。

新しい環境に慣れてきた子どもたちは、頑張ったり遠慮したりしていた姿から、本来の「その子らしさ」が垣間見られる場面が多くなりました。この「その子らしさ」はとても大切です。乗り物が好きなのも恐竜が好きなのも、よく砂場に行くのも水が大好きなのも、おしゃべりなのも慎重に見ているのも、すぐやってみるのも丁寧なのもその子らしさです。ひとりひとりに「好きなこと」や「やりたいこと」があり、「自分の思いや考え」があって、それを言葉にしたり行動に表したりすることを大切にしていきたいと思います。

「自分」は「他者」との関係から意識されます。子どもは、周りの大人に「～が好きなんだね」「これが使いたかったんだね」「うれしいね」「～してほしかったんだね」など思いを受け止めてもらい、言葉にしてもらうことで、自分の思いや考えを意識したり、言葉にすることを知ったりしていくのです。思いや考えを受け止めてもらうことは、「自分がかげがえのない存在」であり、大切にされていると感じることに繋がります。また、自分とは異なる友達の思いや考えに触れたり、それを受け止めてもらっている様子を見たりすることで、「一人一人を大切にすること」が感覚的に身についていくようにも思います。人は皆、自分らしく思ったり考えたり感じたりしていいし、それを受け止めてもらう存在です。これは「個人の尊重」へとつながり、やがては「人権尊重」へとつながっていくことだと思います。

ところで、自分の思いや考えを主張するばかりではうまくいきません。自己主張とともに、自己調整や自己抑制も必要となってくるわけですが、それができるようになるのは、年長の後半だと言われています。もちろん、5歳後半になったら急にできるというようなものではありませんし、小さな子どもでも我慢したり譲ったりする行動は見られますが、3歳頃の子どもの「自己中心性」がありますから、ふさわしい方法を考えたり相手の立場に立ったりなど、状況に応じて振舞えるようになるには時間がかかるものなのです。

例えば、お片付けをせずに遊んでいたり、友達のものを取ったりするなどということが、3歳児～4歳児1学期の間はよく見られます。行為自体はふさわしくないことですが、そこには「まだ遊びたい」、「使いたい」などの自分の思いがありますから、「まだ遊びたかったんだね」「使いたかったんだね」と思いを受け止めながら、片付けの時間という生活の流れや、友達の使いたい気持ちが分かるように、「あと3回したら片付けようね」「終わったら貸してって言おうね」などと話して、導きたい方向に促していきます。すぐに分かるとかできるとかいうものではありませんが、繰り返しかかわり、できたときにしっかり認めていくと、「そのうち」分かったりできたりするようになるのです。子育ては、この「そのうち」を目指して行う地道なかかわりの繰り返しとも言えます。だからこそ、成長の喜びが大きいのではないのでしょうか。



それぞれの鯉のぼり・子どもの日のお祝い：花組・風組は、思い思いに作ったコイに、吹き流しや風車を付けてもらって、自分の鯉のぼりを作りました。見せ合ったり手に持って泳がせたりして、風車が回ることをとても喜んで持ち帰りました。星組は、県庁での鯉のぼり掲揚式に参加し、みんなで大きな鯉のぼりをつくりました。完成した鯉のぼりをもって園庭を周り、花組や風組に見てもらって誇らしそうでした。

4月28日は、子どもの日を祝って柏餅を食べました。初体験の子どももいたようでしたが、案外よく食べていました。以前は餡が嫌いな子どもが多いと感じていましたが、ここ数年は意外と和菓子を食べてくれます。



花組：砂場、粘土、踊り、ままごとなどをしたり、乗り物に乗ったり、恐竜になったりなどして遊んでいます。5月11日から、朝不安で泣く子どもがいなくなりました。友達と一緒に遊ぶというよりは、友達がしていることを見て自分もやりたくなったり、先生と一緒に遊ぶそのそばに友達がいたり、という感じです。



風組：プリンセスになったり、ごっこ遊びをしたり、虫を見たり捕まえたりする中で、進級児と新入児とが混じりながら遊ぶ姿が増えました。星組のしっぽ取りに入れてもらって、汗だくで走っている姿も見られます。



星組：蛹室が作れるように、カブトムシの土の入れ替えをしました。サクランゴを収穫して、花組や風組に届けてくれました。リボン屋さんを開いたけれど、花組が来るのはまだ難しいからと、移動販売をしていました。

5月12日(木)に第1回やまぐち学園学校運営協議会が開催されました。

やまぐち学園は、コミュニティ・スクールとして、地域や保護者の方々と共に学校園運営に取り組んでいます。その運営等について話し合う協議会の第1回目は、学園の目指す子ども像である「よりよい未来を共に創り出す人間」に向けて、各学校園の運営方針について承認を得たり、現状や課題を共有したりしました。



学校運営協議会委員の皆様（附属学校園教職員を除く）

附属幼稚園 PTA 会長	吉木 祥介 様
附属小学校 PTA 会長	重見 秀和 様
附属小学校 PTA 副会長	寺田 直子 様
附属中学校 PTA 会長	山下 鉄旨 様
地域住民（家庭教育支援チーム山口ゆだ・かべり）代表	佐藤 光恵 様
地域住民（山口商工会議所青年部）	宮原 尚規 様
地域住民（児童民政委員）	岡村 克祐 様
地域住民（岡崎ボデー工場代表取締役）	河上 隆司 様
地域住民（近江屋取締役副社長・山口青年会議所理事長）	北條 榮太郎 様
地域住民（入交電設代表取締役社長）	入交 知則 様
学識経験者（元山口県教育会事務局長・元中学校長）	吉岡 周三 様
学識経験者（山口大学教育学部 講師）	田本 正一 様

「親子遠足」は、中止となって残念でした。2日とも、夜から明け方にかけては雨が降っていないのに日中には降る形となり、恨めしい気持ちでした。それぞれに準備をしてくださっていたことでしょうか、お仕事をなさっている方はお休みをとってくださっていたとも思います。実現できず、申し訳ありません。